第4学年 音楽科学習指導案

1 題材名 いろいろな音のひびきを感じ取ろう

教材名 音楽づくり「打楽器の音楽」 器楽「茶色の小びん」

鑑賞「メヌエット」「クラリネットポルカ」

2 題材の目標

- (1) 楽器の音色や旋律の特徴などと曲想の関わりに気付き、楽器の組合せや音の重なり方を生かして音楽をつくる技能や、音色や各パートの音量のバランスに気を付けて演奏する技能を身に付ける。 【知識及び技能】
- (2) 楽器の音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見出しながら味わって聴いたり、楽器の音色を生かした演奏の仕方や、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを用いた音楽のつくり方について思いや意図をもったりする。
 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 楽器のつなげ方や重ね方を工夫して音楽をつくったり、音色やパートの重なり方を生かして互いの音を聴き合って演奏したり、音色や旋律の特徴による曲や演奏のよさなどを感じ取りながら聴いたりする学習に進んで取り組む。

 【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

知識・技能

- ① 打楽器の音色や組合せの特徴が生み出す面白さに気付き、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。
- ② 曲想と音楽の構造との関わりに気付いている。
- ③ 木管楽器の音色や響きと曲想 との関わりに気付いている。
- ④ 音色や響きに気を付けて旋律 楽器や打楽器を演奏する技能 や、互いの楽器の音や副次的な 旋律、伴奏を聴いて、音を合わ せて演奏する技能を身に付けて 演奏している。

思考・判断・表現

- ① 様々なつなげ方や重ね方のよさに気付き、試奏したり聴き比べたりして、思いや意図をもって音の響きや特徴を生かしたまとまりのある音楽をつくっている。
- ② 楽器の音色や旋律の特徴と曲想 との関わりについて気付いたこと を生かして、曲や演奏のよさなど を見出し、曲全体を味わって聴い ている。
- ③ 楽器の音色の特徴や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

主体的に学習に取り組む態度

- ① 打楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴を生かし、即 興的に音で表現する学習に進 んで取り組もうとしている。
- ② 木管楽器の音色や響きに興味・関心をもち、曲や演奏のよさなどを味わって聴く学習に進んで取り組もうとしている。
- ③ それぞれのパートの楽器の音や旋律を聴いたり、楽器の音色を生かして演奏したりして、音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。

4 題材と指導の構想(全8時間)

(1)題材と児童

① 児童について

活発な児童が多く、音楽の学習に自ら取り組もうとする。音楽づくりでは、試行錯誤をしたり友達と 交流したりしながら、楽しく活動する様子が見られた。

鑑賞「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」では、男声と女声について、歌声の特徴やよさ、歌声の掛け合いや重なり、それらが生み出す面白さを感じ取った。また、音楽づくり「言葉でリズムアンサンブル」では、〔反復〕〔呼びかけとこたえ〕〔変化〕を生かし、言葉のリズムを組み合わせてリズムアンサンブルをつくることができた。

② 題材について

本題材は、現行の小学校学習指導要領の以下の点を受けて設定した。

第3学年及び第4学年

- A 表現
- (2) ア イ(ア) (イ) ウ(ア) (イ) (ウ)
- (3) $\mathcal{F}(7)$ (4) $\mathcal{A}(7)$ (4) $\mathcal{P}(7)$ (4)
- B 鑑賞
- (3) ア イ

[共通事項]

ア 音色 音の重なり

本題材では、音色を中心に音の重なりや音楽の仕組みとの関わりを取り上げ表現と鑑賞の学習を進める。「打楽器の音楽」では、材質による音の特徴を捉えて音の組合せを考えたり、図形カードを楽譜に見立て て即興的に音で表したりする。その後、カードを組み合わせてまとまりのある音楽に構成することを通して、音の特徴を生かした音楽づくりを行う。

鑑賞では、3年生で金管楽器の音楽に親しんだ学習経験を踏まえ、木管楽器がもっている固有の音の美しさを味わいながら聴く活動を進める。4年生なりに感じたことを言葉や図で表現させ、曲や演奏のよさを見出して聴くことができるようにする。

器楽合奏「茶色の小びん」では、いろいろな楽器の音が重なる豊かな響きを味わいつつパート間の音量のバランスに配慮しながら演奏する活動を通して、互いの音を聴き合って演奏することの喜びを味わえるようにする。ここでは、音色に関わる学習として、鉄琴や木琴に使うマレット選びの工夫も考えることができる。

(2) 指導の構想

① 主体的に学習を進めるための「学びの宝箱」(デジタルポートフォリオ)※1の活用

児童が学びの軌跡を蓄積し、自分の成長を実感できるように、「学びの宝箱」を活用する。「学びの宝箱」に、授業で用いた学習シートや演奏の様子の録画、授業で学んだ内容やできたことに関する振り返りの記述などを児童自身が保存する。

まず、本題材でどんな曲を学習するかを知ることで、全体の見通しをもつことができる。次に、「打楽器の音楽」(音楽づくり)では、1時間目と2時間目(本時)の録音を比較することで、図形カードのつなぎ方や音色の重ね方を工夫したときに、自分の演奏がどのように変わったかを自覚しやすくなると考える。最後に、「茶色の小びん」(器楽)では、自グループの録音や他グループの演奏を聴いて確かめることを通して、工夫を取り入れたり楽器のパート間の音量バランスを調節したりしやすくなると考える。このように「学びの宝箱」を活用することで、児童が主体的に学習を進める姿を期待する。

<※1「学びの宝箱」(デジタルポートフォリオ)について>

市小研音楽部で作成したデジタルポートフォリオである。 題材ごとに一枚のテキストになっており、題材全体を見通せるところが特徴である。また、子どもが思考した学習カードや振り返りに加え、演奏している様子を動画として保存することもできる。子どもが使用しているタブレット端末に保存してあるため、子どもが好きなときに好きなように取り出し、活用することができる。



市小研音楽部作成

② 学びを深めるための「5つの手立て」※2の活用

本題材では、「5つの手立て」のうち、可視化と比較の手立てを講じる。

まず、可視化について、「打楽器の音楽」では、来年度の教科書に掲載される二次元コードコンテンツ「ムーブの部屋」の音楽づくりシートを活用する。この音楽づくりシートを使うことによって、音の鳴らし方や演奏のタイミングを目で見て確認することができる。音のつなげ方や重ね方などを児童自身が容易に表すことができ、友達や教師との共有もしやすくなる。また、鑑賞では、主な旋律の図形楽譜を使う。音色の特徴や旋律の動きが見て分かるので、曲の感じと旋律の動きを関連付けながら考えやすくなると考える。

次に、比較について、「打楽器の音楽」では、「(即興的につくった)自分たちの打楽器の音楽演奏」と「(意図してつくった)様々なつなげ方や重ね方を工夫したモデル演奏」を聴き比べる。これにより、リズムのつなげ方や重ね方の工夫によって、曲のよさや面白さが生まれることに気付かせる。「メヌエット」「クラリネットポルカ」(鑑賞)では、フルートとクラリネットの音の特徴を比較したり、主な旋律を表す図形楽譜を提示して旋律の動きを比較したりする。これにより、それぞれの楽器の音色や旋律の特徴の違いを感じ取ることができるようにする。「茶色の小びん」(器楽)では、異なるマレットを用いた木琴や鉄琴の演奏を比較する。これにより、マレットの違いによる音色の変化やパートの役割、パート間の音量のバランスなどを考えて、マレットを選択できるようにする。

<※2「5つの手立て」について>

市小研音楽部で子どもの学習活動を支える有効な手立てとしてまとめた5つの手立てのことである。

①モデルとなる音楽の提示 子どもに目指すモデル (お手本) を提示して見通しをもたせる。

② [共通事項] の焦点化 ねらいに関わる〔共通事項〕を焦点化して学習活動の拠り所にする。

③音や音楽の可視化 音や音楽を色・図・体の動きなどで可視化し分かりやすくする。

④比較 曲想の異なる部分や楽器や演奏の仕方を変えたものなどを聴き比べる。

⑤関連付け 異学年、題材同士、分野同士を関連付け、既習を生かす。

市小研音楽部作成

③ 題材全体を見通すための「学びの地図」(デジタル題材構成図)※3の活用

題材全体の見通しをもち、教師と児童が一緒に授業を進めることができるよう、「学びの地図」を作成 し活用する。「学びの地図」は、題材のねらいを達成するために、どの教材から、どのような活動を通し て、何を学ぶかが分かるように作成する。

本題材では、始めに、「打楽器の音楽」(音楽づくり)を行う。打楽器アンサンブルづくりを通して [音色]の特徴の生かし方が分かるようにする。次に、「メヌエット」「クラリネットポルカ」(鑑賞)を 行う。それぞれの音色のよさや旋律の特徴について考える活動を通して、音色だけでなく [旋律]の特徴も曲想に生かされていることが分かるようにする。最後に、「茶色の小びん」(器楽)を行う。これまでの「音楽づくり」「鑑賞」で学んだ [音色]と [旋律]のよさを演奏に生かせるようにする。

※3「学びの地図」(デジタル題材構成図)について>

「楽しくて学びのある」音楽授業ができるようにと市小研音楽部が作成したデジタルの題材構成図である。題材ごとに一枚のテキストになっているため、題材全体を見通して授業を行うことができる。それぞれの教材曲に対して、有効な手立て・学習シート・振り返り用紙・図形譜などが保存されており、授業者の必要に応じて活用することができる。また、自分で作成したものもさらに添付することもでき、授業者が使いやすいように変化させながら使用できる。



市小研音楽部作成

5 題材の指導計画(全8時間)

n-l-	学習のねらい(○)と主な活動内容(・)			評	価
時	学びの宝箱に関わる学習活動	知·技	思	態	評価規準
1	学びの宝箱で題材名や学習内容を確認し、興味・関心や学びの見通しをもつ。 ○ 打楽器の音楽について、どのような音の特徴があるか分類したりどのような鳴らし方があるか試したりする活動を通して、様々な音色の面白さに気付き、即興的にリズムアンサンブルをつくることができる。 ・楽器の音の特徴を調べて分類し、「自分の音」を決める。 (ムーブの部屋「打楽器の音楽②」 p 48) 発行者:小原光一・飯沼信義・浦田健次郎教科書名:「令和6年度小学校の音楽」 ニ次元コードコンテンツ「ムーブの部屋」p48 ・「鳴らし方を表す図形カード」を見て音の出し方を試奏する。 ・「自分の音」「自分の鳴らし方」を記述する。(提出箱へ) ・リズムアンサンブルづくりに向け、「始め」を全員でやってみる。・3人グループでカードを並べ、「中」部分を即興的につくる。 (ムーブの部屋「打楽器の音楽⑥⑦」) ・つくった打楽器の音楽を保存し、振り返る。				態のや組徴しにす進組でいい。 ・楽や特出に即をりせ表能けつるである。 一音そ合を、音るんもいで、技器組徴す気興選組た現をてく。 おいれせ生即で学でうる ①の合が面付的択みりす身音って楽響らのか興表習取と。 音せ生白きにし合しるに楽で楽響らの特 的現にりし 打色のみさ、音たわて技付をい
2 本 時	 ○ 打楽器アンサンブルづくりについて、つなげ方や重ね方を工夫したモデル演奏を聴いて「面白さ」について話し合ったり、グループで試してつくったりする活動を通して、思いや意図をもってまとまりのある音楽をつくる。 ・前時でつくった打楽器アンサンブルを紹介する。 ・つなげ方や重ね方が工夫されたモデル演奏を聴き、「曲の感じ」と関連付けて話し合い、「よさ」を共有する。 ・図形楽譜からつなげ方や重ね方と「曲の感じ」「よさ」を確認する。 ・グループで、「自分の音」を生かせるように図形カードのつなげ方や重ね方を工夫して「中」部分の打楽器アンサンブルをつくる。 ・つくった打楽器アンサンブルを録音・保存し、前時のものと比較しながら振り返る。 		1		思つ重さきたべて意てやかま音っなねに、りた、図音特しり楽て様げ方気試聴り思をの徴たのをいなやよし比し、やっき生とるく。

3	 ○ 打楽器アンサンブルづくりについて、自分たちの考えた表現の工夫が伝わるように演奏したり、他のグループの表現の工夫のよいところについて伝え合ったりすることを通して、音の特徴を生かして打楽器アンサンブルをつくる面白さに気付く。 ・「終わり」の部分を付け加える。 ・思いが表れるように工夫して演奏する。 ・互いの打楽器アンサンブルを聴く。 ・自グループや他グループについて、音の特徴を生かすための鳴らし方やつなげ方・重ね方の工夫、リズムアンサンブルのよさや面白さなどについて振り返り、伝え合う。 	2			知・技② 曲 想と音楽の 構造との関 わりに気の いている。
4	○ 木管楽器の音色について、いろいろな木管楽器を聴いたり、音色 の違いについて話し合ったりする活動を通して、木管楽器の音色や 響きの特徴に気付く。 ・「いろいろな木管楽器」を聴き、楽器の音色を確認する。(音楽授業支援 DVD) ・それぞれの楽器の形や音の出る仕組みについて確認する。 ・フルートとクラリネットが演奏する音楽について、どんな感じがしたかを話し合う。	3			知・技③ 木 管楽器の音 色や響きと 曲想との関 わりに気付 いている。
	・木管楽器の音色の特徴やよさについて振り返る。				
5	 ○ 「メヌエット」と「クラリネットポルカ」の鑑賞について、旋律の動きに注目して聴いたり、音色や旋律の特徴や曲想との関わりについて話し合ったりする活動を通して、曲や演奏のよさに気付き、曲全体を味わって聴く。 ・「メヌエット」を聴いたり旋律の図形譜を見たりして、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」を聴いたり主な旋律の図形譜を見たりして、感じたことや気付いたことを話し合う。 		2	2	や旋と 曲想と の 関 の 関 の 関 の 関 の 関 の 関 の 気 生 か 変 と を 演 変 見 出 し て 、 さ さ は 立 な 曲 で で 本 で 響き に 取 の で 乗・関 心を も
	・フルートとクラリネットの旋律や音色を比較しながら曲全体を通 して聴き、感じたことを友達と伝え合う。				ち、曲や演奏の よさなどを味わ って聴く学習に 進んで取り組も うとしている。
6	 ○ 「茶色の小びん」の合奏について、音色や旋律に着目して範奏を聴いたり、曲の特徴を生かして演奏したりする活動を通して、進んで音を合わせて演奏しようとしている。 ・範奏を聴いて、それぞれのパートのよさについて、音色や旋律と曲の感じを関連付けて話し合う。 ・楽譜を見て曲の構成を確認したり階名唱したりする。 ・主な旋律を鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・副次的な旋律をリコーダーで演奏し、主な旋律と合わせる。 ・演奏の様子を録画・保存する。 			3	態③ パの能器を発生し音を変進しる。 それぞの旋り色演でせ学取ししたを奏進もる。 は、を奏、て習りている。

7	 ○ 「茶色の小びん」のグループ合奏について、各パートの旋律の特徴を確認したり、役割を分担してそれぞれの旋律を演奏したりする活動を通して、音色に気を付けて合奏する。 ・主な旋律、副次的な旋律、和音、低音の各パートを確認する。 ・マレットによる木琴や鉄琴の音色の違いを確認する。 ・4グループに分かれ、各旋律を演奏する。 ・拍にのり、音色に気を付けて合奏する。 ・グループ合奏を録音・保存し、どのように演奏したいかをワークシートに記述する。 		3	思③ の重取の出自りのををそれさ感らををのすてのののののののののののののののののののののののののののののののののの
8	 ○「茶色の小びん」のグループ合奏について、パート間の音量バランスや響きに気を付けて演奏したり、他のグループの表現の工夫のよいところを自分の演奏に生かしたりする活動を通して、音を聴き合い、合わせて演奏することができる。 ・お互いの音量バランスや響きを確かめながらグループで演奏する。 ・互いの表現を聴き、それぞれの演奏のよさを伝え合う。 ・自グループの合奏について、それぞれのパートの音色や響きを生かすための工夫について振り返る。 ・演奏の様子を録画・保存する。 	4		知・技働をというでは、これでは、おいいでは、おいいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ

6 本時の計画(2時間目/全8時間)

(1) ねらい

打楽器アンサンブルづくりについて、つなげ方や重ね方を工夫したモデル演奏を聴いて「面白さ」について話し合ったり、グループで試してつくったりする活動を通して、思いや意図をもってまとまりのある音楽をつくる。

(2) 構想

① 演奏についての思いや意図をもたせるための、教師によるモデル演奏の提示

それぞれの楽器のよさを生かし、つなげ方や重ね方を工夫した演奏をモデルとして提示する。これにより、つなげ方や重ね方の工夫をすることで、よりまとまりがあって楽しい演奏になることに気付かせる。また、既習の「言葉でリズムアンサンブル」で使った工夫〔呼びかけとこたえ〕〔反復〕も使えそうだと気付かせ、音楽づくりへの思いや意図をもたせる(掲示物も活用する)。

② 子どもの音楽作りを支えるタブレット端末の活用

音楽づくりシートを、「考える⇔試奏する⇔確かめる」場面で使用させる。考える場面では、図形カードを動かしながら音楽づくりに取り組ませる。試奏する場面では、楽譜として用い、自分たちの作った音楽を演奏できるようにする。確かめる場面では、録音機能を用い、自分たちの作った演奏を聴いて確認できるようにする。このようにタブレット端末を活用させることで、音楽づくりの3つの場面を行き来しながら、主体的に学習に取り組めるようにする。

(3)展開

学習活動(時間)	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価(観点/方法)・○留意点
1 教師のモデル	T1 前の時間は「中」の部分をつくりましたね。	○ グループごとに学びの宝箱に
演奏を聴いて、	グループごとに図形楽譜を見て、手拍子で演奏	蓄積してある前時の図形楽譜を
学習課題を設定	してみましょう。	見て演奏を振り返る。
する。	│ C c (グループごとに振り返る。)	
(3分)	T 2 先生も打楽器アンサンブルをつくってみまし	○ つなげ方や重ね方を工夫した
	た。聴いてください。(→♪動画を見せる)	モデル演奏を提示する。
	C1 かっこいい。	○ 最初は、図形楽譜を提示せ
	C2 すごく上手。	ず、聴くことに集中させる。
	C3 楽しい感じがする。どうしてかな?	
	学習課題 どんな工夫を使うと楽しい演奏にな	○ 児童の言葉を生かして課題を
	るかな。	設定する。
2 教師のモデル	T3 もう一度聴いてみましょう。どんな工夫を	○ 工夫①~③ではない想定外の
演奏を聴いて、	使っているか分かりますか。(♪動画を見せる)	工夫が出てきても、否定せず認
工夫に気付く。	C4 一人だけ違うカードだけど、全員重ねて	める。
(10分)	いました。【工夫①重ねる】	○ 子どもの発言に関わる部分の
	T4 もう一度確認してみましょう。	動画を見せ、どのようなつなげ
	(♪その部分の動画を見せる)	方・重ね方をしたか、全員がわ
	C 5 本当にその工夫がありました。	かるようにする。
	T5 一人だけ違うカードだけど、全員重ねている	〇 子どもが気付いた「工夫」
	と、どんな感じがしましたか。	「どんな感じ」を併せて問い、
	C6 トライアングルの音がよく聴こえて、主役!	各工夫と得られる効果とをつな
	という感じがしました。	げながら、全員で確かめる。
	T6 他にはどんな工夫がありましたか。	
	C7 順番に演奏していました。【工夫②順番】	
	T7 もう一度確認してみましょう。	
	(♪その部分の動画を見せる)	
	C8 本当にその工夫がありました。	
	T8 順番に演奏すると、どんな感じがしましたか。	
	C9 一人一人の音がよく聴こえてかっこいいです。	
	T9 他にはどんな工夫がありましたか。	
	C10 「おまつり」でやった、呼びかけとこたえを繰	
	り返していました。	○ ①~③の3つの工夫のうち、
	【工夫③呼びかけとこたえの反復】	演奏動画だけでは気付かないも
	T10 もう一度確認してみましょう。	のがあれば、図形楽譜を提示す
	(♪その部分の動画を見せる)	る際に確認して気付かせる。
	C11 本当にその工夫がありました。	○ 既習「言葉でリズムアンサン
	T11 呼びかけとこたえをくり返すと、どんな感じ	ブル」での工夫についても取り
	がしましたか。	上げる。
	C12 伝えたいことを伝えられると思います。	

T12 「言葉のアンサンブルづくり」で使った工夫も 使えそうですね。 T13 皆さん、様々な工夫を見付けましたね。図形楽 ○ 図形楽譜を見せ、視覚的に確 譜で確かめてみましょう。 認する。 ○ 図形楽譜に「工夫」「どんな C13 「重なり」がありました! C14 図形カードを順番に並べると、動画のような 感じ」を書き込む。 演奏になるんだね。 C15 「呼びかけとこたえ」は、前に「おまつり」で やったときと同じ感じになるね。 T14 図形楽譜を見ながら動画を見てみましょう。 (図形楽譜を見ながら動画を見る。) Сс 3 グループで T15 このような工夫を使うと楽しい演奏になりそ うですね。確認した工夫を参考にして、アンサン 「工夫」を試し ながら、『中』 ブルを作ってみましょう。 の部分をつく ○ 音楽づくりを始める前に、 【手順】 ① どんな工夫を使うか、試しながら演奏する。 【手順】と【気を付けること】 る。 ② 前の時間につくったものを使って楽譜を完成 (20分) を確認する。 させる。 ○ 楽器は教室の端に、かごに入 【気を付けること】 ・楽譜の操作ばかりにならないようにする。 れて置き、すぐ活動できるよう ・使うカードは一人4枚くらいにする。 にする。 C16 トライアングルが ウのカード、カスタネット とウッドブロックがアのカードで重ねたらトラ イアングルのジリジリジリがよく聴こえそう。 ○ 同じ教室で音楽づくりをす C17 違うカードを重ねると音がよく聴こえそうだ る。楽器の音量を考慮して、使 から試してみよう。(♪試す) 用楽器はカスタネット、クラベ ス、ウッドブロック、マラカ 発行者:小原光一 ス、ギロ、すず、トライアング 教科書名「小学校の音楽」 p 48 の図 ル、トーンチャイム、タンブリ 発行者: 小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 ンとする。 教科書名:「令和6年度小学校の音楽| ○ カードを少しずらして順番に 二次元コードコンテンツ「ムーブの部屋 | p48 しているグループや、強弱の工 夫をしているグループがあれ T16 3人の音がよく聴こえるように別の工夫をし ば、紹介する。 ているグループがありました。聴いてください ○ 他グループと音が混ざりにく (実際に演奏させる)。 いように録音スペースで録音 C18 ちょっとずらしたのか。それも、音がだんだ し、自分たちの演奏を聴いてさ ん大きく聴こえてきていいね。 らに工夫できるようにする。 C19 大体できたから、録音して聴いてみよう。 →録音したものは学びの宝箱に蓄 (→録音スペースで録音する。) 積する。 4 まとめる。 T17 ○グループの演奏を聴いてみましょう。どの ○ 「重なり」「順番」「呼びかけ

とこたえの反復」を使っている

グループを指名する。

工夫を使っているでしょう。

C20 (♪演奏する)

(7分)

- T18 どの工夫を使っていたでしょう。
- C21 重ねていました。
- C22 順番に演奏していました。
- C23 呼びかけとこたえを繰り返していました。
- T19 どんな工夫がありましたか。
- C24 重ねる。順番に演奏する。
- C25 呼びかけとこたえを繰り返す。

まとめ 重ねる、順番、呼びかけとこたえの繰り返しを使うと楽しい演奏になる。

4 振り返りをして、学びの宝箱に学習の軌跡を残す。

(5分)

- T20 振り返りをします。①自分たちが試した「工夫」、②できた曲の満足度、③その理由について書きましょう。
- C26 「重ねる→順番→少しずらして順番にする」で 演奏したら、一人一人の音がよく聴こえるところもあるし、私の「ジリジリジリジリ」が目立つところもあってうれしかった。Aさんの「タタタタ(カスタネット)」も音は弱いけどカードの並べ方を工夫したらよく聴こえるようになった。 (A評価)
- C27 「重ねる→順番→呼びかけとこたえを繰り返す」で演奏したら、みんなの音がよく聴こえて楽しくなった。(B評価)
- C28 最後をみんなで重ねたら、音が強くて迫力が 出てかっこよくなった。(B評価)

- ①自分たちが試した「工 夫」、②満足度、③その理由 を、ロイロノートで振り返りカ ードに書かせる。
- →記述した振り返りカードは学び の宝箱に蓄積し、次時へ生かせ るようにする。
- 思いや意図をもってまとまりのある音楽をつくっている。
 - 【思①/グループの図形楽譜、 振り返りの記述】

(4) 評価

思いや意図をもって、まとまりのある音楽をつくっているか。

A: それぞれの楽器のよさを活かした音楽をつくり、工夫した意図を説明できる。

B:工夫した意図を説明できる。

(5) 板書計画等

* 図形楽譜(モデル演奏)の拡大版

* 板書計画

発行者:小原光一 教科書名:「小学校の音楽」 p 49 の図

課題 どんな工夫を使うと楽しい演奏になるかな。

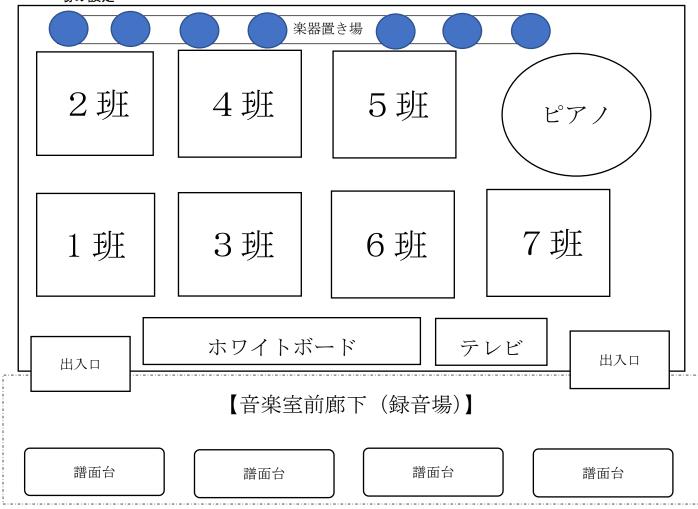
図形楽譜の拡大版

活動の手順

- ① どんな工夫を使うか、ためしながら演奏する。
- ② 前の時間につくったものを使って楽ふを完成させる。
- ※ 楽ふのそうさばかりにならないようにする。
- ※ カードは一人4まいくらい。

まとめ 重ねる、順番、呼びかけとこ たえの繰り返しを使うと楽しい演奏に なる。

* 場の設定



7 参考文献

小学校学習指導要領解説 音楽編